



タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3533		
科目名	運輸保安		
担当教員	平川 登紀		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 5		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能]専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I [理解力・分析力]文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 (30%) E1 学識・専門技能 (40%) I1 理解・分析と読解 (20%) I2 量的分析 (20%) I3 情報分析 (20%)		
教員の実務経験	2000年から2006年まで、国土交通省と警察庁が監督官庁である財団法人空港保安事業センターにおいて、空港保安検査員研修の講師として国内外空港の検査員の技量や能力の監査、新入職員への教育・訓練、次世代保安検査機器の調査研究などを担当していました。現在は、航空セキュリティをメインに研究しつつも航空だけに限定せず、セキュリティ関係のセミナーや勉強会の講師、国際協力プロジェクトへも参画しています。セキュリティの理想と現実について、自身の現場経験を踏まえた講義を行います。（第4回・第10回・第12回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 3 発展期～4 定着期		
科目概要・キーワード	■科目概要 鉄道、航空機、船舶などの公共交通機関および駅、海空港などの関連施設はこれまで多くのテロ攻撃の標的となっており、発生した場合には甚大な被害を出すとともに人々に大きな不安を生じさせることから、それらに対するセキュリティ対策は国際的にも喫緊の課題となっています。本講義は、運輸機関を対象としたテロの実例を概観しながら、そうしたテロを防止するための制度や技術応用の全体像を理解することを目的とします。すなわち、標準、爆発物等や不審者を発見するための保安検査や各種技術、保安区域のアクセスコントロール、法執行機関と民間警備部門との連携などについての現状を概観し、課題を抽出してより効果的な運輸保安のあり方を検討します。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード テロ対策、国際比較、横連携、コスト、セキュリティとサービスのバランス		
授業の趣旨	■副題 セキュリティの理想と現実のギャップを学び、その間にあるギャップを埋めていける専門人材になりましょう。		

	■授業の目的 運輸保安に関係するセキュリティの法律や関係機関について知識を深め、この分野におけるセキュリティ課題を明確にし、解決策や代替案を導き出せるようになることを目的とします。 ■授業のポイント 運輸保安という概念が登場してから、世界の国々は保安体制の強化に邁進してきました。特に、航空保安の歴史はそのままテロやハイジャックとの戦いであり、多くの国々は国の責任において対テロに取り組んでいます。講義では、まず、運輸保安という概念が生まれた歴史的背景を学び、セキュリティレベルが高いと言われている航空保安について考察します。次に、世界中に衝撃を与えた米国同時多発テロ発生の前と後について、海外と日本の航空保安体制を比較します。その後、航空保安のセキュリティ体制を軸にして、鉄道と船舶の保安を検証し、運輸機関が抱えるセキュリティ上の理想と現実の間に存在する多くのギャップや課題を明確にします。こうした課題の解決策や改善提案を各自で導き出すことを繰り返し行うことで、セキュリティ最前線の現場で対応可能な知識を習得していきます。	
総合到達目標	■航空・鉄道・船舶のセキュリティ課題を国・事業者・現場等の各レベルで捉え考察し、運輸保安における基礎知識および俯瞰的知見を習得する。 ・鉄道・航空・船舶のどの分野のセキュリティについてもイメージを描くことができる。（第2～5・7～9回） ・運輸保安におけるセキュリティ対策について日本と他国の比較をすることができる。（第6回） ・実社会でのバランスのとれたセキュリティフレームワークを検討することができる。（第10～11回） ・運輸保安における直近の新しい課題について考え、現場に即した解決策を検討することができる。（第12～14回） ・理想と現実のセキュリティ対策のギャップとその課題および解決策について説明することができる。（第15回）	
成績評価方法	■レポート 2回（50％）：適用ループリック E1・I1・I2・I3 （評価の観点）課題を明確にし、情報と知識を活用し、他者が的確に理解を得ることができるレポートとなっているかを評価します。 （フィードバックの方法）授業時間中に講評を行い、新しい視点や深い知見で書かれたレポートの内容をクラスで共有します。 ■宿題型ミニ・テスト（記述式） 5回（50％）：適用ループリック E1・I3 （評価の観点）授業を通して学んでいること、自分で得た情報を適切にリンクさせ、自身の意見を伝えることができているかを評価します。 （フィードバックの方法）授業時間中に講評を行い、「誤認」や「誤解」があれば都度確認し、クラス全体のセキュリティレベルを上げていきます。	
履修条件	危機管理について基礎知識があること、また、今後のキャリアを見据えて履修することがのぞましいです。	
履修上の注意点	日常生活を通して、いつもとは違う点やおかしいなと思う点に気づくように、常に自分のセキュリティアンテナを高く上げておきましょう。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 授業ガイダンス後、身近なテロとテロ対策について ②授業概要 ガイダンスでは、授業の全体構成、授業の目的と進め方、到達目標、成績の評価方法について説明します（30分）。その後の講義で、身近に存在するテロの脅威について説明する。日常生活に潜むセキュリティホール（脆弱性）を認め(I1)、セキュリティ意識の向上をはかる(E1)。 ③予習（120分） 大学内のセキュリティについて考え、自身で感じることをメモする。 ④復習（120分） 授業を振り返り、授業の目的と到達目標に加え、本講座の受講目標をまとめる。
	2	①授業テーマ 運輸保安とは？ ②概要 航空、鉄道、船舶の保安とは何か、について学ぶ。日常的に使用するこれらの運輸機関において、安全・安心運航/運行のためにどのようなセキュリティ対策がなされているのか概要をとらえ（E1）、その内容を他者へ説明することができるようになる(I3)。 ③予習（120分） 運輸機関を使用した時に感じたセキュリティ上の長所・短所についての考察メモを持参する。 ④復習（120分）

2024/09/05 10:59	シラバス参照	
	身近にある運輸機関の保安対策について、大学への行き帰り等に自身の目で見て確認する（メモを取る）。	
3	①授業テーマ 航空保安 1 歴史的背景 ②概要 1944年に国際連合の専門機関として国際民間航空機関（ICAO）が設立され、航空保安の体制作りが進んだ背景を整理する。ハイジャックという新しい犯罪が登場したことにより、国ごとの航空保安体制が強化されていく過程を検証し(E1)、課題を抽出することができるようになる(I2)。 ③予習（120分） a.(60分) 第1回宿題型ミニ・テスト b.(60分) 『ICAO』『航空保安』『ハイジャック』等、航空保安に関するキーワードで検索し、興味を持った資料を3つ以上読む。 ④復習（120分） 講義を振り返り、航空セキュリティがなぜ必要なのかをまとめる。	
4	①授業テーマ 航空保安 2 9.11米国同時多発テロの前・後の航空セキュリティ体制 ②概要 米国同時多発テロの前・後の航空保安について検証する。 担当教員の実務経験を踏まえて、米国同時多発テロ発生時の真の現場状況を説明する。海外と日本の航空セキュリティ対策を比較し、関係機関の連携体制や責任範囲、また保安検査の厳格化について国家間の相違点をまとめ、説明することができるようになる(E1)。 第1回宿題型ミニ・テストの講評を行う。 ③予習（120分） 米国同時多発テロに関する資料を読み、テロが起きてしまった理由を5つ考える。 ④復習（120分） 講義を振り返り、9.11のようなテロを発生させないためにはどうすればよいか考察する（アイデアを箇条書きしておくこと）。	
5	①授業テーマ 航空保安 3 まとめ ②概要 厳しいセキュリティ体制を敷く航空分野について整理し(I1)、運輸機関におけるセキュリティの重要性を各自の言葉で説明することができるようになる(E1)。 ③予習（120分） 国内外で、港・船・駅・鉄道がターゲットになったテロを調べる。 ④復習（120分） 自身の考えとは異なる議論や情報を整理し、航空保安全体を振り返る。	
6	①授業テーマ 異なるセキュリティ対策： 海外とつながるための航空&船舶、国内移動のための鉄道 ②概要 海外から日本への玄関口となる空港や港は、国内移動でのみ使用される鉄道駅とは異なるセキュリティ対策が必要である。グローバルセキュリティとドメスティックセキュリティにおいて異なる脅威をまとめ(E1)、船舶と鉄道に必要なセキュリティ対策をイメージすることができるようになる(I3)。 ③予習（120分） 『改正SOLAS条約』『国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律とは？』を読む。 ④復習（120分） 日本の航空保安、船舶保安、鉄道保安の相違点をまとめる。	
7	①授業テーマ 船舶保安 1 国際法・国内法 ②概要 国内法、国際法に基づいて、航海船舶および港湾施設の安全がどのように担保され、現場でどのように実行されているのかを学ぶ。船舶における脅威とセキュリティ対策のグローバル連携について論理的に整理し(I2)、保安対策としてやるべきこと（理想）とできないこと（現実）のギャップを埋めるための解決策を検討することができるようになる(E1)。 ③予習（120分） 日本の船舶・港湾保安において関係機関の協力体制および責任機関について調べる。 ④復習（120分） SOLAS条約に基づくテロ対策と、それ以外のテロ対策を確認し、整理する。	

8	①授業テーマ 船舶保安 2 協力と責任 ②概要 日本国内の船舶・港湾保安における協力体制・責任の所在について考え(E1)、弱点を理解し問題解決のための検討をすることができるようになる(E3)。 ③予習 (120分) a.(60分) 第2回宿題型ミニ・テスト b.(60分) 地下鉄サリン事件、新幹線放火事件、ロンドン同時爆破事件、小田急や京王線での刺傷事件など国内外の鉄道を狙ったテロ・事件について調べる。 ④復習 (120分) 海上保安庁が船舶および港湾保安のためにしている取り組みを調べる。
9	①授業テーマ 鉄道保安 ②概要 身近な乗り物である鉄道のセキュリティ体制について、国内外のテロ事例から「なぜ起きたのか」「なぜ防げなかったのか」「どうしたら防げたのか」について考察する。日常生活の足として使用され、身近であるがゆえに飛行機のような厳しい保安体制を敷くことが難しい鉄道の安全・安心の取り組みおよび課題について深掘し(E1)、問題解決のための検討をすることができるようになる(E3)。 第2回宿題型ミニ・テストの講評を行う。 第1回レポートの項目を伝える。 ③予習 (120分) 自身の興味のある運輸分野におけるセキュリティ関係機関について調べる。 ④復習 (120分) 鉄道警察、国土交通省鉄道局のHPを確認し、国内鉄道のセキュリティ対策としてさらにできることを考察する。
10	①授業テーマ 縦割りと横連携 1 責任 ②概要 平常時は、各機関が互いに協力し合い上手くバランスを保ちつつ運輸保安の安全・安心を支えているが、非常時はそのバランスが崩れやすくなり、協力体制や責任比率のバランスも崩れ、連鎖してセキュリティホールが広がっていく。 担当教員の実務経験を踏まえて、セキュリティに関係する組織が多いほど対策の実施が難しくなる状況を説明する。指揮・命令・協力のための法執行機関と民間警備部門との連携について、国内外の具体的な事例を取り上げて検証し(I1)、責任範囲・各機関の役割について説明することができるようになる(E1)。 第1回レポートを提出する。 ③予習 (120分) 運輸保安で使用されているセキュリティ資機材について調べまとめる。性能、導入例、費用、効果等 ④復習 (120分) 予習で調査をしなかった他の運輸機関のセキュリティ関係機関について調べる。
11	①授業テーマ 縦割りと横連携 2 費用 ②概要 保安対策の実施、セキュリティ体制の構築にかかる費用について学ぶ。セキュリティ資機材や人材育成にかかる費用を検証し(I2)、費用対効果が最大となるセキュリティ対策費を検討することができるようになる(I3)。 第1回レポートの講評を行う。 ③予習 (120分) a.(60分) 第3回宿題型ミニ・テスト b.(60分) 運輸機関が行っているサービスについて調査し、それがセキュリティにどのような影響を与えているのかについて考え、まとめる。 ④復習 (120分) セキュリティレベルは維持しつつ、コストを削減するにはどうすればよいか考える。
12	①授業テーマ サービスとセキュリティのバランス 1 グッドバランスとは？ ②概要 日本の運輸事業者は、「すべての旅客は大切な顧客である」と基本的には考えているため、要求やクレームにも可能な限り対応し、顧客に不自由をかけずにすむセキュリティ対策を模索している。 担当教員の実務経験を踏まえて、日本と他国におけるサービスとセキュリティに対する意識の違いを説明する。サービスとセキュリティのグッドバランスを考察し(I2)、セキ

	セキュリティレベルは維持したままサービスの向上につながる保安対策を構築することができるようになる(E1)。 第3回宿題型ミニ・テストの講評を行う。 ③予習 (120分) 日本のサービスとセキュリティについて調査し、海外と比べてどうなのか考え、まとめる。 ④復習 (120分) 警備員がすべきセキュリティとサービスについて考える。
13	①授業テーマ サービスとセキュリティのバランス 2 セキュリティサービスとは？ ②概要 他国のサービスとセキュリティのバランスを検証し、日本のバランスと比較する。日本だけではなく、世界中の人々の安全・安心のために運輸保安の維持そして強化する方法を考えることができるようになる(I3)。 第2回レポートの項目を伝える。 ③予習 (120分) a.(60分) 第4回宿題型ミニ・テスト b.(60分) 内閣官房情報セキュリティセンターHPを確認し、重要インフラに対するサイバーセキュリティ戦略について自身でまとめる。 ④復習 (120分) セキュリティレベルを下げることなく、自身が受けたらうれしいサービスについて考える。
14	①授業テーマ 運輸におけるサイバー攻撃の脅威 ②概要 日常生活を支える鉄道・航空・船舶に対するサイバー攻撃の脅威、各国の対応について考察し(I2)、今後のサイバー攻撃への対策を検討できるようになる(E1)。 第4回宿題型ミニテストの講評を行う。 第2回レポートを提出する。 ③予習 (120分) a.(60分) 第5回宿題型ミニ・テスト b.(60分) 5年後のまでに実施すべき運輸機関のセキュリティ対策について考察し、まとめる。 ④復習 (120分) 海外では重要インフラ（施設）に対するサイバーセキュリティ対策をどのように実施しているのか調べる。
15	①授業テーマ 運輸保安の将来 ②概要 第2回レポートおよび第5回宿題型ミニ・テストの講評を行う。 14回の授業で学んできたことの総括として、知識・知見・情報を共有し、未来型運輸保安の維持・強化方法を考えながら(I1)、ひとりひとりがセキュリティ対策を効果的に発展させていくことができるようになる(I3)。危機管理学部の学生として、友人・知人、その他一般の人々へ運輸保安について説明することができるようになる(E1)。 ③予習 (120分) 今の自分ができるセキュリティ対策への協力を考え、まとめる。 ④復習 (120分) 今後のキャリアを見据え、講義全体を振り返る。
関連科目	セキュリティ概念を学ぶ『危機管理学概論Ⅰ』(RMGT1301)、多様な危機について学ぶ『危機管理学概論Ⅱ』(RMGT1302)、複雑なリスクについて学ぶ『リスク・マネジメント論』(RMGT1303)は、本講と密接に関係します。
教科書	授業資料は毎回指示します。
参考書・参考URL	1. 国土交通省HP「鉄道局」「航空局」「海事局」「港湾局」について https://www.mlit.go.jp/ 2. ICAO Security https://www.icao.int/Security/Pages/default.aspx
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。

研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント0%：パブリックセキュリティ50%：グローバルセキュリティ40%：情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学80%：法学20%
------	---



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.